

音楽科学習指導案

- 1 期日・時間 平成18年10月27日(金) 2校時
2 題材名 『伝えよう!ぼくたちわたしたちの畑の歌』
3 授業学級 4年2組 男子16名 女子12名 計28名
4 授業者 徳武みすず教諭 清水秀昭教諭
5 指導者 上田教育事務所支援指導主事 畑中浩美先生

目次

一、研究テーマ…………… P.1	六、学習指導案…………… P.10
二、研究テーマ設定の理由…………… P.1	1. 題材名…………… P.10
三、音楽科研究構想図…………… P.2	2. 題材設定の理由…………… P.10
四、研究内容…………… P.3	3. これまでの学習の経緯…………… P.11
1. これまでの実践を通して、 分かってきたこと…………… P.3	4. 題材展開構想図…………… P.12
2. 本年度の研究の方向…………… P.5	5. 題材の目標…………… P.13
五、本年度の実践記録-事前授業(7/19)-	6. 教材化…………… P.13
1. 題材名…………… P.6	7. 題材の評価規準…………… P.13
2. 題材設定の理由…………… P.6	8. 題材の指導計画…………… P.14
3. これまでの学習の経緯…………… P.7	9. 本時案…………… P.15
4. 授業の概要…………… P.8	(1) 主眼
5. 成果と課題…………… P.9	(2) 本時の位置
	(3) 指導上の留意点
	(4) 展開
	(5) 実証の観点
	七、資料…………… P.16



長野市立緑ヶ丘小学校 音楽科研究グループ

一、研究テーマ

自分らしく音楽をつくり出す子ども ～ 自作曲の表現活動を通して ～

二、研究テーマ設定の理由

本校の子どもたちは総じて思ったことや感じたことを、素直に表現することができる。日々の音楽の授業や、毎週水曜の全校音楽(ドレミタイム)では、そうしたよい面を更に伸ばすべく、扱う題材ごとに歌詞や曲から受けるイメージを自分なりの言葉で伝え合うことや、音の重なりや響きなどを大切に学習を行ってきた。年度を重ねるごとに、全校770人余りの歌声、表情などにその成果が見られるようになってきた。しかしながら、思い、感じてはいても、それを表現しようとするのを苦手としている子どももいる。



どの子にも豊かな表現や感受性を育て、音楽を楽しんで欲しい。そう私たちが願う一方で、曲から受けたイメージや感じを自分の言葉にしたり、伝え合うことに抵抗感を感じて音楽に親しめない子どももいる。このことを私たちの実践上の課題として受け止めた場合、歌唱や楽器などの学習に比べて、子どもが表現の主体となって自由に自分の体験や経験、思いや願いなどを語り合いながら音楽をつくる学習の場が少なかったのではないかという問題が見えてきた。

そこで、昨年度、3学年を中心にして、総合的な学習の時間で取り組んできた活動を創作曲にする学習に取り組んできた。10月下旬の音楽会で、自分たちが育ててきたおかぼ(陸稲)の活動を発表することになった3年2組では、おかぼという互いに共有できる題材をもとに、自分の体験からの言葉やイメージを曲として練り上げ、つくり上げていった。これまで歌唱や楽器の演奏などに苦手意識をもっていた山口は、パソコンソフトの音楽帳V3[※]を使い、『風に揺れるおかぼ』をイメージした曲をつくった。その曲の感じが、友だちから多くの支持を得て、活動の様子をつなげた音楽会での発表曲のオープニングを飾ることとなった。リコーダーの練習は、作曲者の山口のみならず、他の子どもたちも熱心に取り組み、楽器を持たない畑でも階名を口ずさむほどにまでなっていた。

パソコンソフト「音楽帳V3」を使った音楽づくりは、音符や楽譜の扱いが容易であり、楽しみながら自然に音楽記号等の習得ができる。また、演奏が苦手な子どもも、音楽帳V3で曲を演奏させることができる。このようにしてできた自作曲に寄せる思いや願いは、音楽学習に対する興味・関心・意欲を高めるであろうという仮説をもち、昨年度は研究を進



めてきた。その成果と課題については、四の研究内容に詳しく記すが、曲づくりでのパソコンの利用はその利便性以上に、曲をつくる前と曲を聞き合う段階での個々の体験や経験、あるいはイメージや思い・願いなどをどれだけ共有できるかという、体験・経験、情操面などの醸成がより重要であり、大切であるということが明らかになってきた。

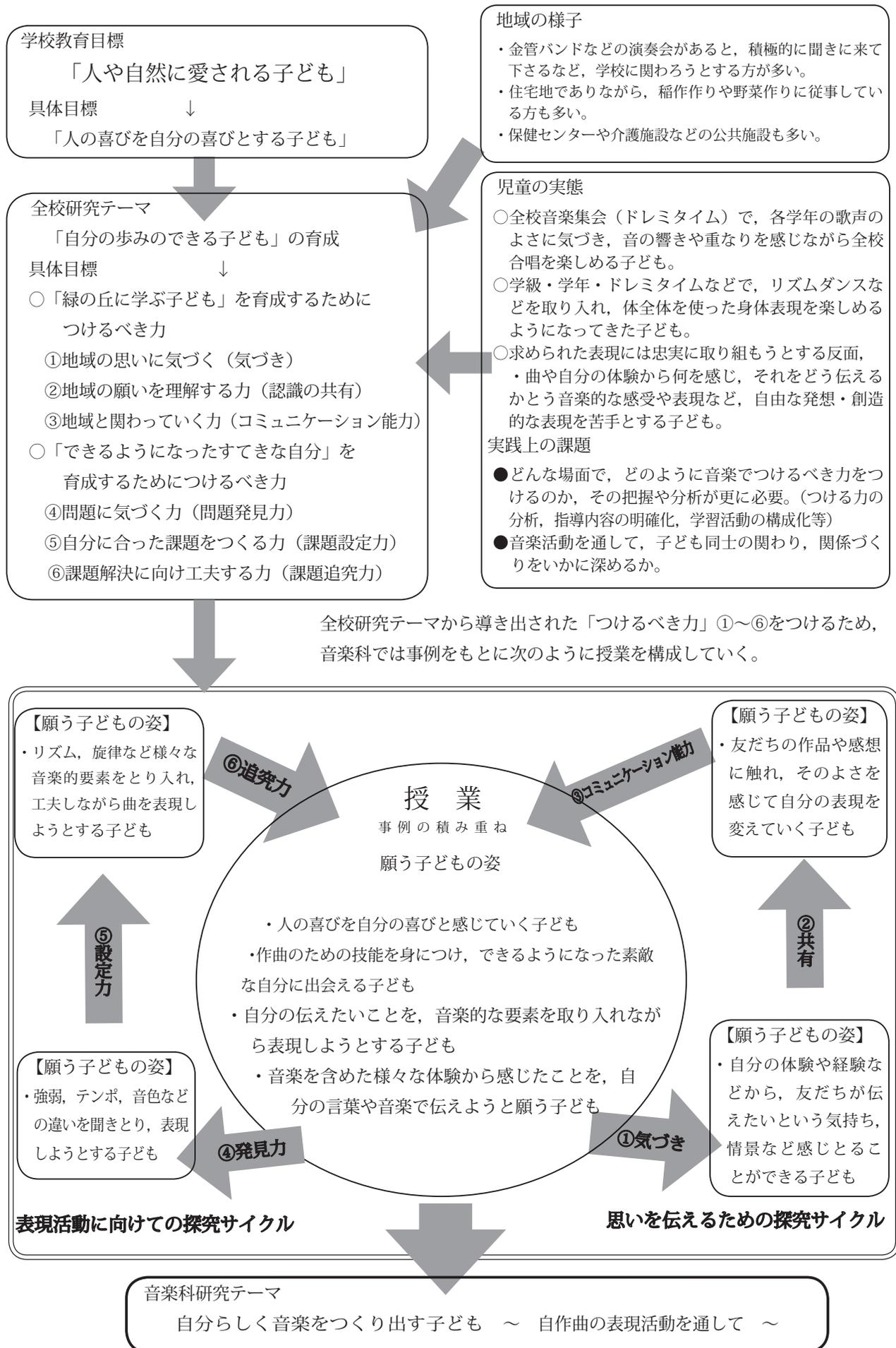
子どもたちが音楽を通して、自分の体験・経験から感じた思いを誰かに伝えたいと願って曲をつくる時には、子ども同士のかかわりが生まれ、関係も深まっていく。このことはどの子も主体的に音楽とかかわり、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽的な感受や表現の工夫」「鑑賞の能力」などの音楽科としてのねらいの達成にもつながっていく。このような意味で、音楽づくりの活動は単に音符をつなげて曲をつくるという活動にとどまらず、個を主体として友と友が互いにかかわり合いながら創りあげる“創造的な音楽づくり”だと言うこともできる。

しかしながら、まだまだ実践は浅く、音楽づくりで子どもたちにどのような音楽的な力をつけていくのか、また、指導内容や指導計画の明確化、評価のあり方など研究を深めなければならない課題も多く残っている。

以上、昨年度までの成果と課題を受け、本年度は自作曲の表現活動を通して、「自分らしく音楽をつくり出す子ども」の育成をテーマに研究を進めることとした。

[※]「音楽帳V3」…学校向け音楽統合ソフト 河合楽器

三、音楽科研究構想図



四、研究内容

1. これまでの実践を通して、分かってきたこと

(1) 事例1 『ぼくもわたしも音楽家』(3年 H17.6)

ねらい：音やリズムを組み合わせて、
4分音符からなる4小節のものの
曲を変身させよう。

「音やリズムを組み合わせて、もとの曲を変身させよう」

教師が示したもとの曲



授業の概要：教師が示した曲をもとに、
音やリズムを組み合わせ、旋律の
山をつくることをめあてに曲を変
身させていった。ねらいは4分音
符を使うことであったが、子どもたちは8分音符や3連符を入れようとしていた。

堀田が変身させた曲



成果：五線譜などの音楽記号を学習するために音楽帳 V3 を利用したことは、個々の学習意欲を喚起し、個人追究や試行錯誤を繰り返しながら、音符を選び、リズムや旋律をつくる上で有効であった。

課題：「こんな感じ（イメージ）の曲にしたいから、この音符を使ってこんなリズムに変身させた」という変身の意図や願いをもたせることがあいまいだったため、音符やリズムをなんとなく並べてしまう姿が見られた。

A. 曲作りでコンピュータ（音楽帳 V3）を利用するよさ

- ①演奏技能や音楽的な知識にあまりとらわれることなく曲作りができ、楽しみながら自然に、音符や五線譜などの基礎的な音楽記号の理解ができる。
- ②曲をデータとして保存するため、何度も繰り返し聞け（試聴や再現）、また修正も容易である。
- ③個人での作曲、あるいはグループでの共作ができ、個別指導、全体指導もできる。
- ④作品を元に、演奏練習が繰り返しできる。

B. 問題点

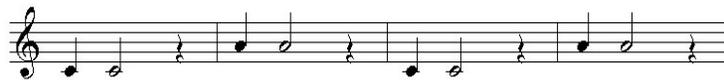
- マウスやキーボードの操作だけで、なんとなく曲ができてしまう。その「なんとなくできた曲」は、「何をどう表現したいか」という伝える側の思いや願いがあいまいなため、
- ①音楽的な要素に基づく指導や評価ができてにくい。
 - ②共通課題（曲のよさや問題点に気づくこと）をもった学習になりにくい。

(2) 事例2 『自分で決めたテーマで曲をつくろう』(3年 H17.7)

ねらい：自分の決めたテーマをもとに、曲
のイメージをもって作曲をしよう。

カメの旅（石原）

授業の概要：自分が飼っているカメを思い
浮かべ、「カメが旅に出る」というテーマ
で作曲を行った石原は、次のような友
だちとの話し合いから曲作りを始めた。
「ゆっくり、低い音を使って、のんびり
した感じを出そう」「うさぎみたいにぴょ
んぴょんはねて走っているところなら8
分音符がいいし、カメみたいに休んでい
る感じを出すには休符を使えばいい」



更に、カメが歩くイメージに近づける
ために曲のテンポを遅くしたり、重厚な
響きのする多重録音の「オーケストラバージョン」の音色を選ぶなどの工夫を重ねていった。

ゆっくり、低い音を使って、のんびりした感じを出そう
カメみたいに休んでいるところは休符を使おう

しかし、自分のテーマが「犬」あるいは「かけっこ」など抽象的なままであると、自分の感じた思いをどう伝えたいかという願いが薄れた曲作りになってしまう傾向が見られた。

成果：曲のイメージが想像できるようなテーマを持たせ曲作りを行ったことは、音符の選択やリズム・旋律など音楽を構成する要素に気づかせ、曲のイメージに基づいてよさや問題点などを学習課題として設定できた。

課題：思いや願いのあるテーマを持たせ、曲のイメージの喚起・掘り起こしをする必要がある。

音楽帳 V3 の音色は 130 種類近くあり、ユニークな音色や微妙な違いにより、音色を選ぶ段階で多くの子が迷う姿が見られた。音楽帳 V3 に頼らず、曲の演奏（表現）は、その子自身で行った方がよいだろう。

C. 自作曲の表現活動における課題

①テーマを明確にして作曲りに取り組む

- ・「自分の感じた思いをどう伝えたいかと願うこと＝テーマ」をはっきりさせ、作曲りにする必要がある。
- ・教師は、テーマから曲によせたその子の思いや願いを共感的に理解し、曲全体のイメージを喚起させるような指導や助言を行う必要がある。

②作曲りでコンピュータの特性を生かす

- ・作曲りにおいては、コンピュータの特性を生かし、リズム（拍・音符・休符）、旋律など音楽を構成する要素への気づきや工夫をさせながら作曲りをさせることが有効である。

(3) 事例3 「おかぼ」のことを全校のみんなに伝えたい（3年 H17.10 校内音楽会 H18.3 ありがとうコンサート）

ねらい：総合的な学習の時間で取り組

んだ「おかぼ（陸稲）」の活動を音楽会で発表するために、これまでの活動を振り返り、場面ごとに歌や合奏曲にしよう。

活動の概要：印象的な出来事や場面を振り返り、グループごとに「どんな出来事をどのように表したか」を

考え、作曲りを行った。岡田、高池、吉沢らはおかぼと共に育てたダイズの豆叩きの場面を受け持ちもち、「豆叩きを一生懸命して、すごく疲れた後、寝っ転がって空を見上げたら、空がとても青くて、それを見ていたらホッとした気持ちになった。そのことを曲に表したい」という思い・願いで作曲りを行った。

成果：曲を聞いた友だちからは、「空を見上げて気持ちがいいみたい」「シートの上で寝転がって空を見上げた気持ちよさが出ている」「青空がきれいって感じがする」など、共有体験をもとにした共感的な感想が多く出された。

課題：更に教師は、テーマがより伝わるには曲のテンポをもっとゆったりさせた方がいいと考え、速さを変えた範奏を何度か行った。子どもからは、「時間が早く過ぎ去った感じがする」「速さのせいで音が変わった、伝わり方が感じがする」「（遅くひくと）気持ちがゆったりしている」など、音楽を表現する要素（テンポ）に関わる気づきも見られるようになってきた。

ぼくたちの空（豆たたき⑤）



ダイズの豆たたきが終わって、見上げた空が青くてホッとした感じを出したい

D. 自作曲の表現活動における課題

③自分で歌う・演奏する

- ・自作曲の表現では、自分の思いや願いが伝わるような強弱・テンポ・音色（楽器選び）などの音楽を表現する要素に気づき、それらの工夫をしながら自分で歌ったり、演奏したりすることが望ましい。

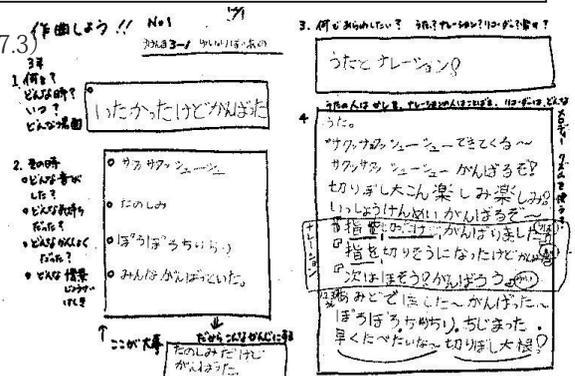
④共有体験をベースにする

- ・表現活動に向かう意欲やエネルギーは、それまでの経験や体験的な活動に支えられる部分が多い。
- ・共有体験をベースにすることで、相互に共感的な理解をしながら共通課題をもって作曲りや、聞き合う、高め合うなどの学習ができる。

(4) 事例4 『大根の歌』をお家の人に聞いてもらいたい（3年 H17.3）

ねらい：家の人に大根のことを伝えるために、自分の伝えたいイメージを学習カードを使ってはっきりさせ、作曲りをしよう。

活動の概要：首藤は「大根の活動を家の人に伝えたい」という相手意識のもとに、学習カードに自分の感じたこと思ったことが伝わるように、歌詞と共に擬音や、ナレーションなどを交えて記入し作曲りを行っていった。



成果：自分の決めたテーマをもとに、学習カードによって五感を通して感じたその時の出来事を想起させ、曲の表現方法や形態についても考えさせたことは、相手意識を明確にさせ、また曲作りや見返しの際のよりどころとなる。

課題：学習活動の構成（ア.表現のためのイメージをつくる
イ.表現のための構想をつくる ウ.表現のための形式を選ぶ
エ.表現を具現化する）という段階を、教師が理解し指導と評価に結びつけていく必要がある。

E. 自作曲の表現活動における課題

⑤学習活動の構成を明確にした指導・評価

- ・創作活動の学習過程を教師が理解し、何をどう指導し評価するのかを明確にすることが大切である。

⑥相手意識の明確化～誰に何をどう伝えたいのかをはっきりさせる。

いたかったけどがんばった（大根の歌）

サクサクシュー- できてくる サクサクシュー- がんばるぞ
きりほしだいこん たのしみたのしみいっしょけんめい がんばるぞー
ナレーション 指を切ったけどがんばった 1・2・3・うん (言葉に出さない)
指を切りそうになったけどがんばった
次は干そう、がんばろう!!
あみどでほした がんばった ぼろぼろちりちり ちまった～
はやく たべたいな きりほしだいこん!!

2. 本年度の研究の方向

児童の実態

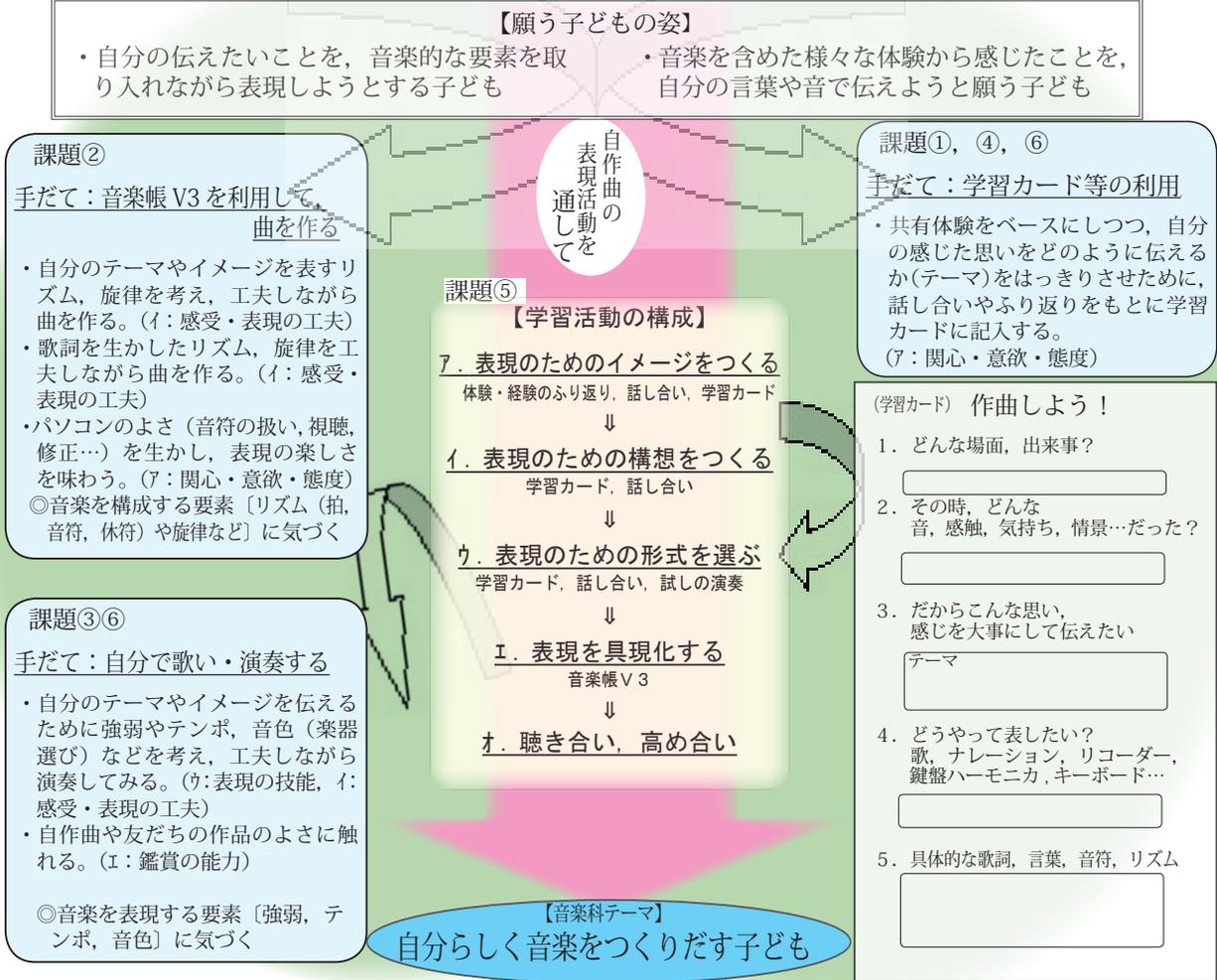
- 全校音楽集会（ドレミタイム）で、各学年の歌声のよさに気づき、音の響きや重なりを感じながら全校合唱を楽しめる子ども。
- 学級・学年・ドレミタイムなどで、リズムダンスなどを取り入れ、体全体を使った身体表現を楽しめるようになってきた子ども。
- 求められた表現には忠実に取り組もうとする反面、
・曲や自分の体験から何を感じ、それをどう伝えるかという音楽的な感受や表現など、自由な発想・創造的な表現を苦手とする子ども。

指導上の課題

- ・どんな場面で、どのように音楽でつけるべき力をつけるのか、その把握や分析が更に必要。（つける力の分析、指導内容の明確化、学習活動の構成化など）
- ・音楽活動を通して、子ども同士の関わり、関係づくりをいかに深めるか。

表現活動に向けての探究サイクル

思いを伝えるための探究サイクル



五、本年度の実践記録—事前授業（7/19）—

1. 題材名 『ぼくたち、わたしたちの畑の歌』

先生の曲（4月13日）

2. 題材設定の理由

4月、4年2組。学級編制替えによる新しいクラスでの2回目の音楽の授業。教師は、リズムや旋律の違いや、曲から受けたイメージを自由に語らせることで、音楽への興味・関心・意欲を高め、音楽的な感受や表現の豊かさを感じとらせることをねらい、パソコンソフト「音楽帳V3」で、8小節からなる4つの曲を作り、子どもたちに聞かせた。



4月13日 4年2組 ^{えみり}笑里

今日の音楽は、パソコンで作った徳武先生の曲が、どんな感じがするか考えました。

私は、最初の曲はうさぎがスキップをして草原を走り回っている感じがして、2曲目は、かめがゆっくり歩いている、最初の曲よりもリズムがおそいことに気づきました。

3曲目は、音ぶが上がったり、下がったりしていたので、うさぎとかめがかけてこしてるんだなあと感じました。

最後の曲は、最初の曲とすごく似ていて、うさぎとかめがおしゃべりをしているように感じました。この次がとても楽しみです。

この日の笑里さんの日記に見られるように子どもたちは、リズムや旋律などの音楽を構成する要素に気づき、うさぎやかめ、あるいはかけっこや雲の動きなど、それぞれの曲から受ける自分なりのイメージを豊かにふくらませていくことができた。

教師は、子どもたちが音楽とかかわることを通して「音楽的な諸能力を身につけ」、「友とかかわり、互いの理解をより深める」ことを願っている。そのために、研究テーマ設定の理由の項でも触れたように、創造的な音楽づくりを指導計画に取り入れ、総合的な学習の時間での取り組みを音楽づくりに生かすことで、「音楽に対する興味・関心・意欲」「音楽の知識・技能」「音楽的な感受」などの伸長をはかっている。

上述のようにクラス替えがあった本クラスの子どもたちは、本年度の総合的な学習の時間を畑での栽培活動を中心に進めることにした。3年生までの間に、どのクラスも何らかの形で栽培活動にかかわってきた子どもたちは、昨年よりもたくさんの面積が畑として使えることを学級担任から聞き栽培に関心を示した。更に、とれた作物を10月下旬に予定されているPTA主体の学校行事「緑の丘の祭り」で売ることを考え、これまで模擬店などのお客さんとしての参加から、売る側＝企画・運営者として参観する計画をもった。このような見通しで始まった総合的活動『ぼくたち、わたしたちの畑』を、音楽の授業では、「音楽づくりを通して家の人や学年・学校の人に伝えたい」そんな願いを6月下旬になって子どもたちはもつようになった。

このような子どもたちの願いや意識を受け、創造的な音楽づくりにおける昨年度までの課題を整理し直し、題材展開計画を次のように構想し本題材を展開していくこととした。

創造的な音楽づくりの課題(昨年度まで)

- ①テーマの明確化
- ②コンピュータの特性を生かした曲作り
- ③自分で歌い・演奏する表現
- ④共有体験をベースにした学習展開
- ⑤学習活動の構成化
- ⑥相手意識の明確化

「題材展開計画」

- ①共有体験をベースとして学習展開を図る。
- ②相手意識をもち、思いや願いをどう表現するのかテーマをもつ。
- ③学習活動の構成化を図る。
- ④コンピュータの特性を生かして曲づくりを行う。
- ⑤自分で歌い・演奏する表現活動を大切にす。
- ⑥指導と評価の観点を明確にした一時間の授業の積み上げ。



3. 学習の経緯

前述のように学級編制を替えを行った新しいクラスでは、昨年度の取り組みにおける既習内容に多少の差が見られた。そこで、1学期前半は子どもたちのレディネスを揃えるねらいで学習を行い、6月下旬からは、これからの音楽学習を見通した話し合いを子どもたちと持ち、「ぼくたちわたしたちの畑の歌」というテーマで作曲を行っていく計画を立て本題材へとつなげていった。

(1) テーマを決めて作曲をしよう 4～5月
ねらい：音楽帳 V3 に慣れる。自分のイメージを曲に表す。

①事例1「自分のイメージを曲に表すことができた柳沢」
空に浮かぶ雲の様子を自分の心象風景としてイメージしたあゆは、小節ごとに雲のイメージを書き記し、リコーダーで発表することができた。楽譜へのイメージの書き込みは、曲想を感じ取る上で効果的であった。課題①②

雲がゆったり (あゆ)

②事例2「リズムの違いで2通りのカメが表せる」
高池は『カメが家に帰る』というテーマで曲を作った。楽譜への書き込みと発表から、5・7小節の同じリズムの繰り返しでカメの足音、2・6・8小節の全音符で休憩の様子を表す意図を伝えることができた。

この演奏を聞いた北村は、4小節も全音符でカメが休む様子を表したらどうかという意見を高池に伝えた。自分で何度か演奏を行い「それもいいね」と応じた。4分音符はカメがノコノコ歩く様子、全音符は、カメが休む様子を表せることができることに気づくことができた。課題②

カメが家に帰る (高池)

がっきは、キーボード

(2) 永井君の歌詞に曲をつけよう 6月
前の学習で、永井は「曲はつくれないけれど、歌詞ならできる」とカメを題材に歌詞を作った。この歌詞にグループごと曲をつける学習を行い発表会をもった。

ねらい：永井君の『のんびりカメさん』の詞を読み、そこから感じたイメージを曲に表そう。

③事例3「願いを伝えるには、歌い方も大切」
最初のグループ発表の際、中川、北村(か)、田中らのグループは歌声があまりに小さく、自分たちの伝えたいことをクラスに伝えられず終わってしまった。どんなによい曲やイメージをもったとしても、音楽ではそれを表現できなければ相手に伝えることができない。その反省を元に、彼女らは「一人一人が大きい声をだす」「伝わるように歌う」などの目標をもち2回目の発表に取り組んだ。課題③

一人一人が大きい声を出す

伝わるように歌う のんびりかめさん (ゆめチーム) 目標 声を大きくする

かめが散歩をしている感じ

④事例4「友とのかかわりから、イメージをふくらませていった」
首藤、柳沢、原田らは、「のんびりカメさん」に曲をつける学習の中で、自分たちのイメージを互いに話し合った。歌詞のイメージを広げ、散歩にでかけたカメがようやく家に帰る様子をナレーションで入れることを考えついた。更に、そのナレーションの部分は、リコーダーによる間奏とし、3人で分担した発表は友から多くの評価を得た。
カメから抱いたイメージを共有しながら広げ、ナレーションや間奏などで表現の幅を広げたことは、次の活動へ向けての意欲を高めることにつながっていった。課題④

永井くんののんびりカメさん (あのチーム)

(3) 本時 (全10時間扱い中の第6時間 7月19日)

歌ったり聴いたりしながら言葉の抑揚やフレーズにあわない旋律があることに気づき修正する。

本時の主眼

・グループでつくった「畑のうた」に、『歌いづらかった』、『歌詞とリズムが合わなかった』、『歌いたい感じがでなかった』などの旋律や歌詞があることに気づいた子どもたちが、



・音の高さやリズムを工夫して、繰り返し歌ったり、聴き合ったり、教師のつくった旋律を参考にしたりすることを通して、

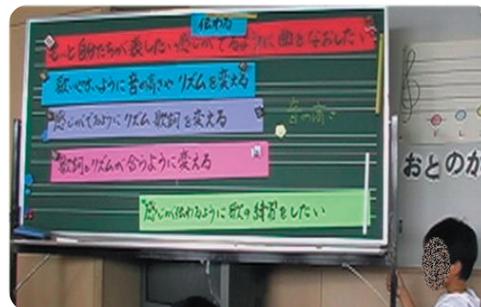


自分で歌い・演奏する場

・音楽帳を使って自分たちが表したい感じになるように旋律や歌詞を直すことができる。

① 課題把握 (楽譜に書かれていた問題点を課題として確認する)

- 願いは、「伝える」
全校に畑のことを伝えたい
- ・「もっと自分たちが表したい感じができるように、曲を直したい。」
- ・「歌いやすいように音の高さやリズムを変える。」
- ・「感じが出るようにリズム、歌詞を変える。」
- ・「歌詞とリズムが合うように変える。」
- ・「感じが伝わるように歌の練習をしたい。」



反省・考察

A. 個が感じている問題点から、自分はどこをどう直したいかという個の課題を明確にする必要がある。(課題把握の弱さ)

② 曲を直す (手だて…繰り返し歌う、聴き合う、教師の旋律を参考にする)



18小節からの「水はとうめい」からの部分を2つずつ、先生も考えてみました。こまったら聞いてみてください



教師のつくった旋律を、曲の続きに入力しておいた

反省・考察 ⇒課題

- B. 上記Aに通じて、個の課題把握が弱いために、「繰り返し歌い、聴き合いながら直す」という意識が低かった。
⇒「私はこう思うよ。こう直せばいいよ。」と自分の考えを歌声で表現できる力をつけていく。
⇒PCの演奏に頼らず、鍵盤ハーモニカ、リコーダー等の楽器の利用を積極的に取り入れていく。
- C. 体験・経験をベースにしているだけに、歌詞に込めた思いが強く、曲に対しても子どもなりの試行錯誤の末のものであるために、一度できたものを作り直そうという気持ちになかなか出来なかった。また、教師の旋律を参考にしようと、画面をスクロールしたり、コピー&ペーストをしようとしてPCの操作に戸惑っていたグループが多く見られた。
⇒自作曲に対する自信・満足は、これまでの学習過程の確かさである反面、改善点を自覚できるように、より伝えたいことが伝わるような歌詞づくり、歌いやすいリズムや旋律のあり方、小節数(1楽節=8小節)などに気づけるような段階的な指導が必要である。
⇒PCの操作、音楽帳の扱いに慣れさせる一方、PCでできること、音楽科として子どもにつける力の見極めを行い、更に互いの補完的な有効活用を考えていく必要がある。



(4) 第三次 (2時間)

互いにつくった曲を聴き合い、旋律・リズム・歌詞から伝えたいことを感じあうことができる。
・グループの発表を聴き合い、その中から代表曲2曲を選んで、1学期終業式で発表を行った。

六、学習指導案

1. 題材名『伝えよう！ ぼくたちわたしたちの畑のうた』

2. 題材設定の理由

(1) 1学期の授業を終え、見えてきた成果と課題

① 子どもの手応え～「畑の出来事を自作曲として、終業式で発表できた！」

『ぼくたち、わたしたちの畑のうた』を完成させ、1学期の終業式で発表を

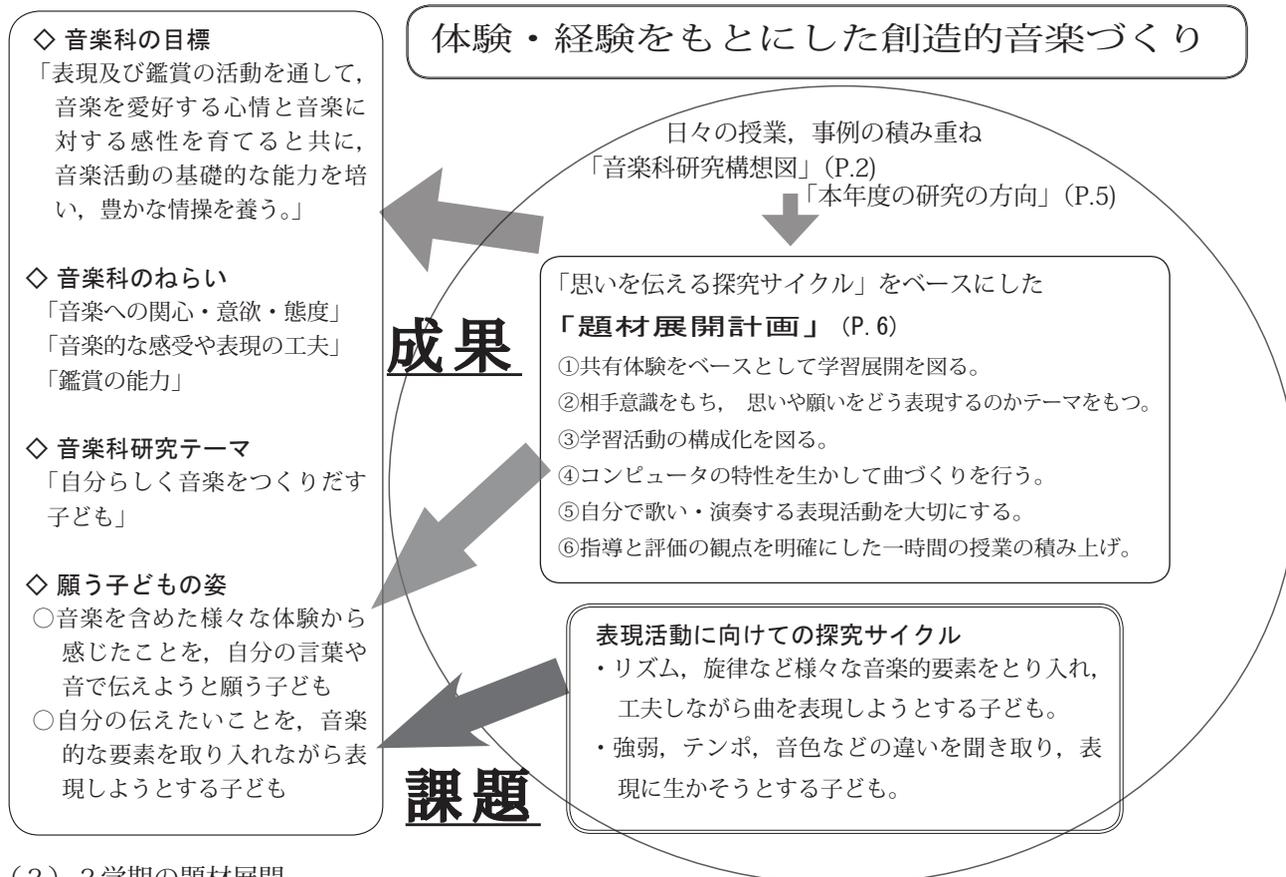
した子どもたちは、自作曲を全校の前で発表できたことに大きな喜びを感じたようである。特に目の前にいた低学年が興味深く歌を聴いてくれていたことが、曲への満足感を高め、音楽づくりの手応えを感じたようである。

② 教師の手応え～ 成果と課題

このような子どもの姿をP.2の「音楽科研究構想図」並びにP.5の「本年度の研究の方向」に照らし合わせると、体験・経験をもとにした創造的音楽づくりが、音楽科の目標、ねらい、本研究テーマの具現に向けて有効であることが分かってきた。

特に「思いを伝える探究サイクル」をベースに考えた「題材展開計画」(P.6)の段階的な学習展開は、感じたことを自分の言葉や音で伝えようとする子どもたちの学習に沿ったものであり、また教師にとっては学習に即して指導・評価をする上でも、その有効性を実感することができた。

しかし、同時に課題として見えてきたことは、「表現活動に向けての探究サイクル」で目指している、音楽としての表現力をどのようにつけるかという問題である。



(2) 2学期の題材展開

2学期は11月中旬に行われる校内音楽会の発表を目標に、題材名を『伝えよう！ぼくたちわたしたちの畑のうた』として学習を展開していくこととした。願う子どもの姿を研究の重点として以下に示す。

① 曲づくり…自分の伝えたいことを歌詞に表し、繰り返し歌いながら音の高さ、リズム、旋律を工夫しながら曲をつくることができる子ども。

② 表現…曲の中で特に自分が大事に伝えたいと考えるフレーズを、強弱をつける工夫をしながら歌唱によって表現できる子ども。

3. これまでの学習の経緯

(1) 総合的な学習の時間では…「ぼくたちわたしたちの畑」

①「畑の全滅か？」

1学期に育てていた畑の作物は、7月からの異常気象とも言える長雨、猛暑、大雨により、陸稲以外の野菜はほとんどが全滅してしまう。子どもたちは落胆しつつも、がんばって育てている陸稲の成長に希望を見だし世話を始める。米の収穫まで他の作物の収穫・調理等で活動を展開する予定だった担任は、学習の展開を変えざるを得なくなる。



手前の野菜畑は全滅状態。残されたの奥に育つ陸稲のみ。落胆する子どもたち。

②「せんべいって、お米でできているんだ！」

稲刈りから米の収穫までどのように学習を展開すればいいのか。担任は子どもたちと「米でできるもの調べ」を行う。その中で出てきたのが、せんべいである。何気なく食べているおやつの一つであるせんべいがの原料が米であることを知った子どもたちは、自分たちでもできないかと考え始めた。そこで早速、米の粉を買い求めせんべい作りの生地に取り組む。それを2～3日、天日で干し、ほどよい固さになったところで、炭火を使った七輪でじわじわ焼いてみた。これを繰り返す。最終目標は、陸稲からとれた米を石臼で粉にひき、それをつかったせんべい作りである。



七輪で、せんべいを焼く。



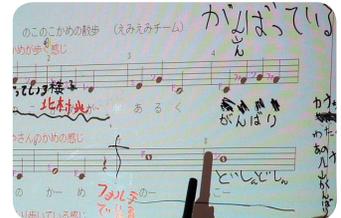
9月29日 無事、稲刈りができた。

(2) 音楽の授業では…伝えたいことを歌って伝わるように曲をつくらう

①「のんびりカメさん」(P.7) を歌って表現する(9月) 本題材に入る前に、これまでの反省・課題を生かすため、6月の「のんびりカメさん」(7曲中1曲を選択)をグループごと歌唱で表現する学習を行った。この学習のねらいを以下に記す。

- (a) 歌詞や曲から曲想を感じとり、
- (b) 自分が大切だと考えている部分を見つけ、そこをどんな気持ちでどう歌うか話し合い、
- (c) 「<」・「>」・「f」・「p」などの音楽記号をつけて、
- (d) 友だちに伝わるように歌うことができる。

この学習で子どもたちは、相手に伝わるように歌う表現の工夫、また歌いやすさと共に自分の伝えたい部分が伝わるような曲づくりをすることの必要性に気づいた。



プロジェクターで映し出した楽譜に、強弱記号を書き入れ、歌い方の工夫を話し合う。

②「伝えよう！ ぼくたちわたしたちの畑のうた」

総合的な学習の時間、それと歌唱による表現学習を行い、10月から本題材に取り組み始めた。本時に至るまでの題材展開の概要は以下のようなものである。



グループ練習の後、発表を行う。自分たちの歌い方が伝わるかどうか確かめ合う。



口ずさんだり、鍵盤ハーモニカを使ったりしながら作曲する。

共有体験 畑にまつわる活動…稲刈り、はぜかけ、せんべい作り

「畑の出来事を歌にして伝えたい」
学習活動の構成化 (P.5)

7. 表現のためにイメージづくり
(個人) 畑の出来事をふり返り、自分の伝えたい場面、出来事を選ぶ。

4. 表現のための構想づくり
(グループ・個人) 4人で話し合い、稲刈りからせんべいづくりまでの分担をし歌詞をつくる。曲づくりをイメージして、言葉のまとまりやリズム感のある歌詞づくりを心がける。

5. 表現のための形式を選ぶ
(グループ・個人) 歌で伝える、表現することを主に、曲の構成やつながりをナレーションや間奏などでどう表すか話し合う。

1. 表現の具現化する
(個人・グループ) 音楽帳を使い、口ずさんだり、鍵盤ハーモニカを使ったりしながら作曲する。
音楽帳の注釈機能を使い、「この曲のテーマ(伝えたいこと)」、「特に大事にしたい部分」、「どんな風に歌うか(歌い方)」等を入力する。

6. 聴き合い、高め合い
(グループ) 各自が作曲した歌を作曲者の願う表現になるようにグループで歌ってみる。互いに聴き合い、もっとよい表現の工夫などを話し合い、歌い、曲を完成させていく。

相手意識 校内音楽会(11月22日)で、全校や家の人に畑の出来事を自分たちの曲で伝えたい

この曲のテーマ
おかあさんよこんでくれるかな
ごませんおいしくできるかな (あの)

ごませんおいしくできるかな 　ごませんきれいにやけるかな
ちょっとおもしろくない 　だんに強く 　ごませんおあさんすきだよ！という気持ち
おあさん 　だんに強く

おあさんよ 　こんで 　くれるかな
ど　と　こ　う　よ　ろ　こ　ん　で　く　れ　る　か　な

4. 題材展開構想図 … 音楽科研究構想図 (P.2) 本年度の研究の方向 (P.5) 題材展開計画 (P.6) をもとに本題材の展開を構想する。～

「思いを伝えるための探究サイクル」…創作学習

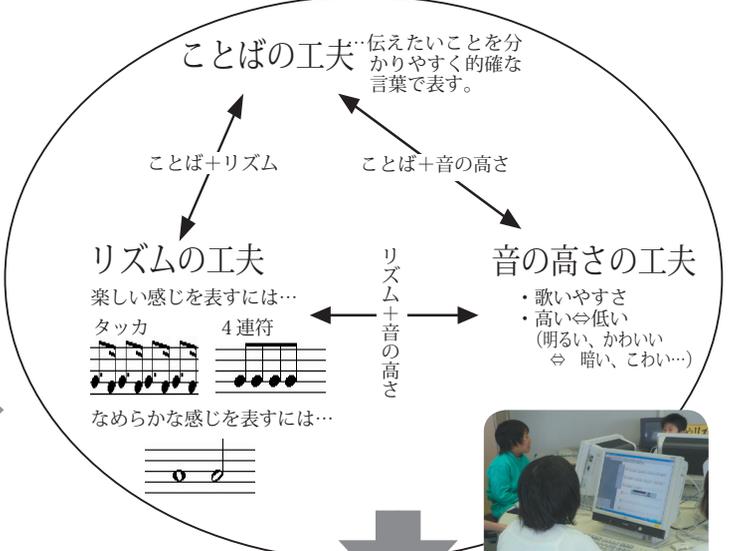
【共通体験・経験】「おかぼを育てよう」



【子どもの願い】
「自分たちの**おもしろくて、楽しい畑の活動**を、自分で曲にして、みんな（グループ、クラス、全校、家の人）に聴いてもらいたい。」

【伝えたいことを歌詞にしよう】
・「こんな出来事
・「こんな場面 **を伝えたいなあ**
・「こんな気持ち

【歌詞に曲をつけよう】
「口ずさんだり、鍵盤ハーモニカを使ったりしながら、「音楽帳」で曲づくりをしよう。」



研究テーマ
自分らしく音楽をつくり出す子ども
～自作曲の表現活動を通して～

【自作曲の完成】
この曲のテーマ
あかさんよるこんでくれるかな
ごませんおいしくできるかな (あの)



【気持ちが伝わるように歌おう】
(学習課題)
・音楽記号を使って、自分の気持ちが伝わるように歌い方を工夫しよう。

「表現活動に向けての探究サイクル」…表現学習

【歌ってみよう】 (学習問題)
・気持ちを伝える歌い方ってどうすればいいのだろう。

作曲家の気持ち(意図)を音楽記号で表す

- ・楽しい感じを出すために
- ・はずんだ感じを出すために「スタッカートで歌おう」「アクセントをつけよう」

- ・ことばを大切にするために「強く歌おう」「弱く歌おう」

f **p**

最初は真っ白だったせんべいが、焼けてきておいそうになる

焼いているときの感じ (強い)

楽しい感じを出す一さつ音じゃなくて楽しく歌

おちほろの歌 (リョウせい)

「さ」を強く歌う

- ・自信があまりない感じから、だんだん自信がでてきた感じをだすために
- ・ワクワク、ドキドキする感じをだすために「クレッシェンドをつけて歌ってみよう」「デクレッシェンドで歌ったらどうなるだろう」

どうして「さがせ」の「さ」を強く歌うの？

落ちて穂を必死で「さがせ」っていう感じを出したいから。

それには、音符にアクセント(その音を強く)という記号をつければよい。

表情や音色も気持ちを伝えるには大事だ

・ゆったりとなめらかな感じをだすために「スラーをつけよう」

「音楽記号は気持ちを伝えるために、とても大切なんだ！」

イメージ-----伝えたい気持ちや場面のこと

4 題材の目標

総合的な学習の畑の取り組みの中で、自分の伝えたいこと場면을、友だちと関わり合いながら、イメージや歌詞を生かした創作・表現活動に意欲的に取り組むことができる。

【学年目標(1)】

イメージをもとに歌詞をつくり、つくった歌詞を生かしたリズムや音の高さを工夫して旋律をつくって表現することができる。

【学年目標(2)A(4)-ア】

曲想をもとにイメージを伝える歌い方を曲想をもとに工夫し、表現することができる。

【学年目標(2)A(2)-ア】

伝えたい場面の表現を聴き、イメージにあうリズムや歌詞にあう旋律を感じとり、つくって表現することよさや楽しさを味わうことができる。

【学年目標(3)B】

5 教材化

教材	教材の価値	教材の価値へ迫る学習活動
・伝えたい場面についての思いをふくませ、イメージを持つこと	・畑での活動を振り返り、自分の伝えたい、表したい場面を考え、その場면을【気持ち・風景・感じたこと・聞こえてくる音、等】具体的に歌詞やセリフや効果音を考えながら、イメージ化することができる	・自分が伝えたい場面について、学習カード(1)に記入することで、思いをふくらませる。 ・同じ場面を選んだ仲間と話し合い、模造紙にそのときの気持ち等書き込んだり実際に畑にもどり実感することを通して、イメージをふくらませ共有化していく
・イメージをもとに歌詞をつくり、歌詞を生かした旋律をつくり表現すること	・つくった歌詞の中から大事にしたい言葉、感じてほしい言葉をイメージと合わせながら決めだしていくことができる ・音符や休符を理解し、イメージにあうリズムを考えたり口ずさみながら旋律をつくり表現することができる	・イメージをもとに歌詞をつくる ・つくった歌詞を生かし、リズムや音の高さ長さを工夫しながら旋律をつくる ・イメージにあうリズムなのか、歌詞の抑揚を生かした旋律なのか・口ずさみやすい・歌いやすい(自然な)旋律なのか等友だちと関わりながら修正していく
・伝えたい部分の歌い方を工夫して表現していくこと	・伝えたい気持ちが表われる曲想表現を工夫し、表現することができる	・曲想(強弱・スラー・スタッカート・アクセント)を比較して歌ったり、聴きあったり、することを通して伝えたい部分の歌い方を工夫することができる
・伝えたい場面の表現を聴きあうこと	・イメージにあうリズム・歌詞・旋律・曲想(音楽記号)を感じとり、表現することよさや楽しさを味わうことができる	・それぞれ伝えたい場面の表現を聴きあい、旋律・リズム・歌詞・曲想から感じが伝わることを互いに意見交換しあい良さを認めていく

6 題材の評価規準

題材の評価規準

ア 音楽への関心 意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
・イメージにあう歌詞・旋律・リズムをつくって曲想表現することに興味を持ち、意欲的に創作・表現活動をしている	・イメージをもとにつくった歌詞を生かしたリズムや音の高さ・旋律を伝えたい気持ちの歌い方曲想をもとに工夫している	・イメージにあう旋律・語りをつくり、友だちに伝わる歌い方を工夫し表現をしている。	・イメージにあうリズムや歌詞にあう旋律を感じとり、つくって表現することよさや楽しさを味わっている

学習活動における具体の評価規準

・意欲的に友だちに自分の感じたことや考えていることを伝えたり、表現しようとしている	・イメージ・歌詞の抑揚・言葉のかたまりを生かした旋律(リズム・音の高さ)・歌い方を工夫している	・つくった曲を友だちに伝わるように歌い方を工夫し表現している	・互いの作品のよさを感じ取り、つくって表現することの楽しさを味わっている
---	---	--------------------------------	--------------------------------------

7 題材の指導計画（10時間扱い）

	ねらい	主な活動	主な教師のかかわり 評価規準	時
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の活動から伝えたい表わしたい場面を見つけ、思いをふくらませ、イメージを持ち、表現方法を考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたい場面について、学習カード(1)に記入することで、思いをふくらませる。 ・同じ場面を選んだ仲間と話し合いをし、模造紙にそのときの【気持ち・風景・感じたこと・聞こえてくる音、等】具体的に書き込み、歌詞やセリフや効果音を考えながら、イメージ化することができる ・実際に畑にもどり実感することを通して、イメージをふくらませ共有化し、さらに表現方法を決めだしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい場面で何を感じどんなふうに表現していくのか考えさせたり、学習カードをもとに、気持ちを聞き出す ・グループになったとき、ひとりひとりの思いが実現するように支援する (村越・森山・関・永井・原田・中島は、教師の支援が必要) ・首藤・中沢チームは、伝えたい気持ちと表現方法がありすぎるので一番伝えたいことにしぼりこませる 	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをもとに歌詞をつくり、歌詞を生かした旋律をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをもとに歌詞をつくる(子どもたちにとってこの歌詞はとっても大切なものである) 【資料2参照】 ・つくった歌詞を生かし、イメージにあうリズムや音の高さ長さを工夫しながら旋律をつくる 【パソコン】 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな歌詞にすればいいのか、イメージとメロディーを浮かべながら考えさせる ・「どんな感じ?」「その音は何の音を表しているのだろうか?」「伝わるのかなあ?」という言葉がけをしながら、伝えたいイメージにもどって考えさせる。 	3
自分たちの気持ちを確認するためにパソコンで歌詞や気持ちを入力する (総合的な学習で1時間)				
第二次		<ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり聴いたりしながら言葉の抑揚やフレーズにあわない旋律があることに気づき修正する 【パソコン】 ・できた旋律を歌い込み相手に伝わっているか表現方法を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてつくった旋律を変えた部分を取り出し、なぜ変えたのか問い、自分たちも同じ場所はないか気づかせる ・聴くだけでなく実際に歌ったりして、聞き役をつくりながらチェックする。 ・旋律が決まったところは、通して歌ってみて他の言葉について考えさせる。 	本時
	<ul style="list-style-type: none"> ・さらにイメージにあう語りや効果音を工夫し、友だちに伝わる表現ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面全体を通して表現した時、聴く人に伝わる表現であるか、語りの声の大きさ、抑揚のつけかた、効果音の強さ・入るタイミング等友だちと関わりながら確認するしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通した時に聴く人に伝わるか、聞き役をつくり「今のでつたわるかなあ」と言葉をかけていく ・効果音のあり方等、教師の範奏や他グループのよさを紹介しながら表現させていく 	2
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ伝えたい場面の表現を聴きあい旋律・リズム・歌詞から感じが伝わることをわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ伝えたい場面の表現を聴きあい、旋律・リズム・歌詞から感じが伝わることを互いに意見交換し、良さを認めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのよさや感じの違いに視点をあてて聴き合うよう助言する。 ・旋律づくりのポイントを確認し、どの作品もよさがあることを伝える。 	2

7 題材の指導計画（13時間扱い）

	ねらい	主な活動	主な教師のかかわり 評価規準	時
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の活動から伝えたい表わしたい場面を見つけ、思いをふくらませ、イメージを持ち、表現方法を考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたい場面について、学習カード(1)に記入することで、思いをふくらませる。 ・同じ場面を選んだ仲間と話し合いをし、模造紙にそのときの【気持ち・風景・感じたこと・聞こえてくる音、等】具体的に書き込み、歌詞やナレーションを考えながら、イメージ化することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい場面で何を感じどんなふうに表示していくのか考えさせたり、学習カードをもとに、気持ちを聞き出す ・ひとりひとりの思いが実現するように支援する 	2 ア
第二次	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをもとに歌詞をつくり、歌詞を生かした旋律をつくることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをもとに歌詞をつくる ・つくった歌詞を生かし、イメージにあうリズムや音の高さ長さを工夫しながら旋律をつくる【パソコン】 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな歌詞にすればいいのか、イメージとメロディーを浮かべながら考えさせる ・「どんな感じ?」「その時はどんな感じがした?」「そのリズムで楽しい感じが伝わるのかな?」という言葉がけをしながら、伝えたいイメージにもどって考えさせる。 	3
	自分たちの気持ちを確認するためにパソコンで歌詞や気持ちを入力する (総合的な学習で2時間)			
		<ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり聴いたりしながら言葉の抑揚やフレーズにあわない旋律があることに気づき修正する【パソコン】 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの音を聴くだけでなく実際に歌ったりして、聞き役をつくりながらチェックする。 ・旋律が決まったところは、通して歌ってみて、歌いにくいところはなおしていく 	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージにあう曲想の工夫や自分の気持ち伝わる表現ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた旋律を歌い込み相手に伝わる曲想(強弱・スタッカート・スラー・言葉のアクセント)を工夫する ・曲想を工夫した作品を表情豊かに表現することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番伝えたい部分を伝えたい気持ちを大切にして、曲想をもとに気持ちが伝わる歌い方を工夫させる ・「今ので伝わるかなあ」と言葉をかけていく ・教師の範唱や他グループのよさを紹介しながら表現させていく 	1 本時 1 ア・ウ
第三次	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの作品を聴きあい、旋律・リズム・歌詞・歌い方から感じが伝わることをわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの作品を聴きあい、旋律・リズム・歌詞・歌い方から感じが伝わることを互いに意見交換し、良さを認めていく ・自分(作曲家)の意図を作品としてのこすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのよさや感じの違いに視点をあてて聴き合うよう助言する。 ・曲づくりのポイントを確認し、どの作品もよさがあることを伝える。 	2 ア・エ

本題材での視聴覚・情報機器等の活用

音楽作曲ソフト「音楽帳v3」: 楽しみながら、自然に音符や基礎的な音楽記号が理解できる
曲をデータとして保存するため、何度も繰り返し聴け(試聴や再現)また修正も容易である

プロジェクター: 楽譜(作品)を提示し、学習を共有化することができる

ホワイトボード: 提示された楽譜(作品)の曲想(強弱・スラー・スタッカート・アクセント等)を工夫することに活用できる

8 本時案

(1) 主眼

『音楽記号は気持ちを伝えるために大切だ』と実感した子どもたちが、「畑のうた 番」の作曲家（友だち・自分）の伝えたい気持ちを大切にしながら、曲想（強弱・スラー・スタッカート・アクセント・表情等）を比較して歌ったり、聴きあったりすることを通して、一番伝えたい部分の歌い方を工夫することができる。

(2) 本時の位置

前時 「畑の歌 番」の一番伝えたい部分を曲想をもとに歌い方を工夫した
次時 「畑の歌 番」の一番伝えたい部分を曲想をもとに歌い方を工夫した

(3) 指導上の留意点

比較して歌ったり、聴いたりする場面では、いろいろな感じ方があるが、最終判断は作曲家の友だちの考えにまかせることを確認しあう。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	・支援	評価	時	使用機器
導入	1 本時のめあてを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・クレッシェンドのところは本当に《ぬけなくて残念だったけど楽しかった》ってきこえるよね ・番のぼくの曲でも 番伝えたい部分の歌い方を工夫してみたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えたい気持ちを言葉をどう歌えば伝わるのか、歌い方の工夫のできたせなくんの作品をみんなで歌ってみよう」と発問し、音楽記号は気持ちを伝えるために大切であることを再確認しあう 		5	記号のフラッシュカード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 一番伝えたい部分の歌い方を工夫しよう （音楽記号をつけよう） </div>						
展開	2 自分たちの作品の中の番を曲想をもとに歌い方を工夫し、楽譜の中へ音楽記号を書き込んでいく	<ul style="list-style-type: none"> ・クレッシェンドをかけた《焼きたてのおせんべいあついでがまんする気持ち》が伝わるね ・ほんとにあつかったよね 	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな感じをだしたいからという気持ちを大事に記号や言葉をつけるよう声かけをする ・比較して歌いながら決めていくように伝える 		2.5	パソコン プロジェクター ホワイトボード
展開	3 かなさんの作品を歌って作曲家（本人）に感じたことを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・デクレッシェンドで歌うと《きつくしばられて力がなくなってきた感じ》が伝わるね ・クレッシェンドで歌うから《風にふかれていい気持ちになっているおかぼの様子》が伝わるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時の情景が思い起こせるかなさんの作品を聴いて、どんな風に伝わったかということに大事にさせる 		1.0	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 一番伝えたい部分の歌い方を曲想をもとに工夫することができたか </div>						
まとめ	4 学習の振り返りをし、次時の確認をする	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽記号をつけると本当に気持ちが伝わるよね ・今度はぼくたちの作品をみんなに聴いてもらいたいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに感じたことを記入させる ・次時の確認をさせる 		5	パソコン プロジェクター

(5) 実証の観点

- 1 曲想をもとに一番伝えたい部分の歌い方を工夫したことは、自分の伝えたい気持ちを表すのに有効であったか。
- 2 音楽帳で作曲した作品を、ホワイトボードに映し出し、書き込みさせたことは、曲想を決め出すのに有効であったか